香川県下の絵画・記号土器

1、はじめに

旧練兵場遺跡では、今回の調査で記号土器が4点出土した。内訳は、住居跡SH044からは壺の胴部上半部に列点ほ施したものが1点、溝SD001黒褐色土層からは壺頸部下に竹管文を施すものと壺胴部下半に三叉状の文様を施すもの2点、溝SD005暗黒褐色土層からは壺胴部上半部に綾杉状の記号を施したもの1点である。しかしこれまでの調査ではわずか1点確認されているだけである。

香川県における絵画・記号土器研究は古く、六車恵一による多度津郡多度津町白方遺跡の資料に始まる（六車　1959)。しかしその後、資料の増加が無かったため研究の対象とはされない時期が続いた。再び絵画・記号土器に注目が集まったのは、高松市久米池南遺跡で建物の描かれた土器が出土した際であろう（藤井　1989)。その後、県下では少ないながらも資料の増加がみられる。そこで、ここでは香川県下の絵画・記号土器を集成し概観し、今回出土した資料の位置付けを試みてみたい。

2、香川県下の様相

香川県下の絵画・記号土器資料は15遺跡54点が管見に触れた。ただし、資料の中には同一個体の可能性があるものも存在するため、実際の個体数は少なくなるものと考えられる。香川県下では絵画・記号土器の出現は弥生時代中期末～後期初頭段階になってからであり、久米池南遺跡例や高松市上天神遺跡例などがこの時期の資料である。この段階に最も多くの絵画・記号土器が製作されているようだ。その後、弥生時代終末～古墳時代初頭の段階まで一定量の出土があるが、次第に個体数は減少していき、古墳時代前期段階にはほとんど姿を消してしまうようである。

絵画土器のうちモチーフが特定できそうなものには、前述した久米池南遺跡例の建物、高松市太田下・須川遺跡例の鹿、善通寺市九龍神遺跡例の船などがある。この他にも所謂バチ形を呈するものを描いた資料が九龍神遺跡と坂出市川津一ノ又遺跡SR02から1点ずつ出土している。しかし、その他の資料は線刻が何をモチーフと

Tab.1　香川県下の絵画・記号土器一覧表

No.	遺跡名	所在地	出土遺構	時期	文献
1	前田東・中村	高松市	G区SR02	弥生・末～古墳・初	森ほか 1995
2	前田東・中村	高松市	F区SR01	弥生・中末～後初	森ほか 1995
3	久米池南	高松市	第2号土坑	弥生・中末～後初	藤井 1989
4	太田下・須川	高松市	SR02	弥生・中末～後初	北山編 1995
5	空港跡地	高松市	SDe138	弥生・後・後	蔵本 1997
6	上天神	高松市	3区SD02	弥生・中末～後初	大久保 1995
7	上天神	高松市	3区SD03	弥生・中末～後初	大久保 1995
8	上天神	高松市	3区SK01	弥生・中末～後初	大久保 1995
9	上天神	高松市	3区SR01	弥生・中末～後初	大久保 1995
10	上天神	高松市	4区SD08	弥生・中末～後初	大久保 1995
11	上天神	高松市	4区SK01	弥生・中末～後初	大久保 1995
12	大空	高松市		弥生・後・前	大嶋 1996
13	川津一ノ又	坂出市	SR01	弥生・末～古墳・初	山下 1997
14	川津一ノ又	坂出市	SR02	弥生・末～古墳・初	山下 1997
15	郡家原	丸亀市	SD107下層	弥生・末～古墳・初	真鍋ほか 1993
16	旧練兵場	善通寺市	SH-01	弥生・後・後	森下 1994
17	旧練兵場	善通寺市	SH044	弥生・後・前	本報告
18	旧練兵場	善通寺市	SD001黒褐色層	弥生・後・前	本報告
19	旧練兵場	善通寺市	SD005暗黒褐色層	弥生・中末～後初	本報告
20	九頭神	善通寺市	SD-05	弥生・末～古墳・初	笹川 1988
21	九頭神	善通寺市	第3調査区カクラン層	弥生・末～古墳・初	笹川 1988
22	稲木	善通寺市	第3号集積墓	弥生・末～古墳・初	西岡ほか 1989
23	森広	大川郡寒川町	SH-303	弥生・後・後	山本ほか 1997
24	石田高校校庭	大川郡寒川町	SR-Ⅰ01上層	弥生・後・後	山本 1997
25	鹿伏・中所	木田郡三木町	SD07・08	弥生・後・後	西村ほか 1995
26	白方	多度津郡多度津町			六車 1959

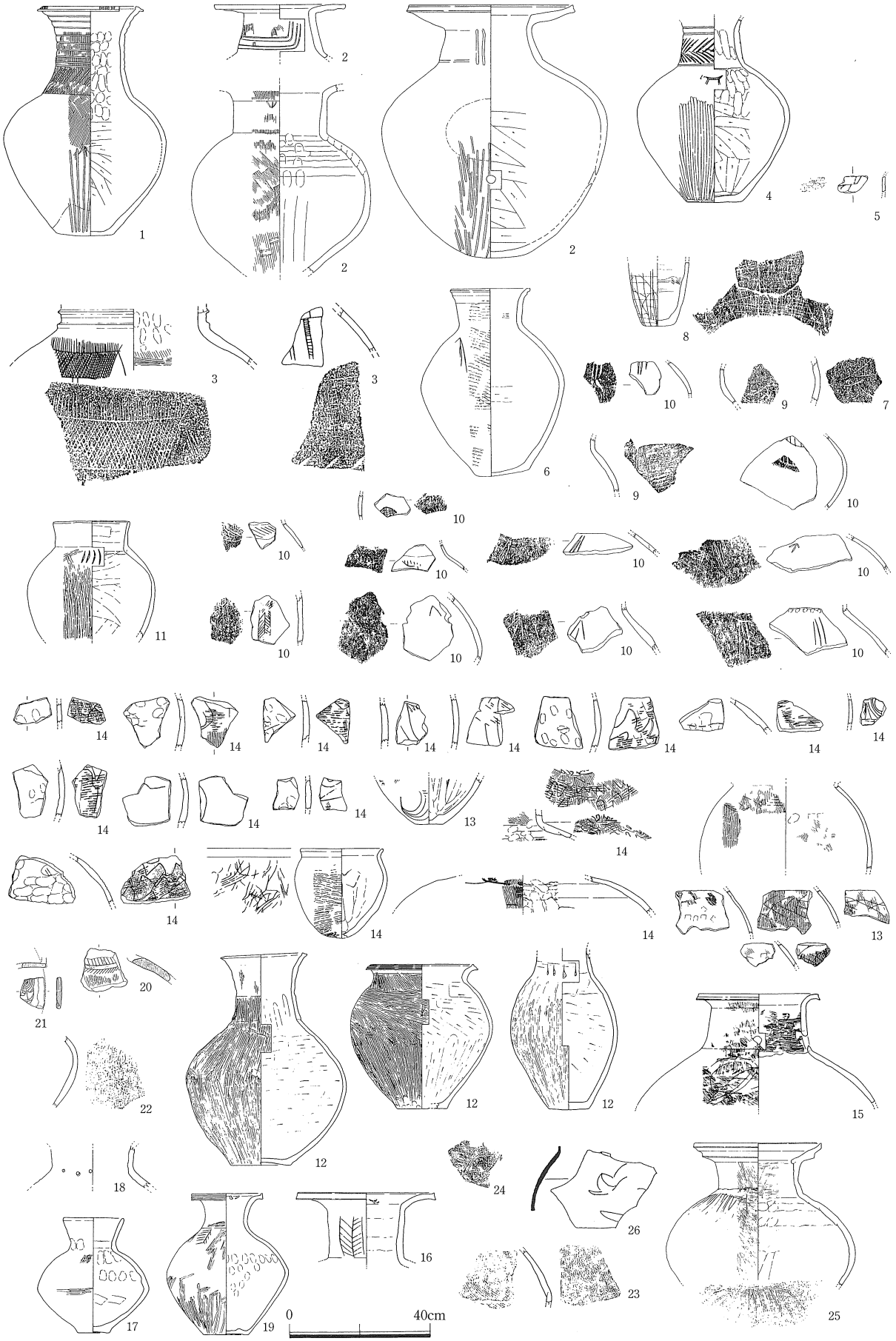

Fig.82　香川県下の絵画・記号土器（各文献より）

しているかが判断できないものが多い。畿内地方と共通する記号も一定数は存在しているが、全体としては記号はバラエティーに富まない。絵画・記号が施される器種は、高松市大空遺跡と川津一ノ又遺跡SR02の甕にある例を除いてほとんど全てが壺に描かれたものである。施文される部位については、胴部上半部が最も多く次いで頸部に施される場合が多い。

3、旧練兵場遺跡出土資料の位置付け

当遺跡出土資料はSH044出土資料を除いては畿内でも同様の記号が認められ、一定の情報が畿内と善通寺市域で共有されていたものと考えられる。SH044出土資料は住居跡柱穴からの出土であり、柱止めと考えられる石に押しつぶされた状態で下層より出土した。このことは住居を建てる際に、例えば後世の地鎮めのように意識的に埋置した可能性が考えられる。そのような祭祀に記号を描いた土器が用いられたと考えることも可能ではないか。また、SD005暗黒褐色出土の壺も溝内から出土した際に一部を破損してしまったが、本来は完形で投棄されていたものと考えられる出土状況であり、口が粘土によって栓をされた状態になっており内部は空洞であった。別の箇所でも述べたが、この溝は集落域の境界と考えられ祭祀関連の遺物も多く出土している。SD001黒褐色土層出土の壺は胴部下半部に記号が施される珍しいもので、描かれた三叉形記号は水鳥の絵画が記号化したものであると考えられる（春成　1991）。もしそうであれば、このような水と関連した記号を水場に投棄すること自体に祭祀的な要素が窺えるだろう。当遺跡出土資料は、比較的記号としては畿内の様相に近い資料であり使用された場も住居跡廃棄の祭祀が行われた可能性がある柱穴や、集落の境界と考えられる溝からの出土している。記号土器は焼成前に記号が施文される段階ですでに、記号が付された土器がどのような祭祀の場で用いられるかが、例えば住居を建てる際であるとか、水と関係した祭りの場であるとか使用を前提に計画設計されていたものではなかろうか。

4、小結

香川県下から出土する絵画・記号土器は従来、数が少ないと考えられており注目されることは少なかった。しかし、近年の調査成果によって一定の個体が出土していることが今回の作業で確認できた。

弥生時代後期前葉段階には旧練兵場遺跡でも畿内系土器が多く出土していることなどから、今回の調査で出土した記号土器の存在は、畿内との交流によって記号を用いた祭式が受容されたことを物語っている。しかし、香川県下では隣接する吉備地方・伊予地方と比べて数量的には少なく畿内からのインパクトはあったものの、石川県下や宮崎県下のように畿内との距離があるにもかかわらず記号が盛行するようなことはなかったといえるだろう。今後は、隣接する伊予東部地方を含む愛媛県の資料の比較検討をおこなうことが肝要となって来るだろう。

【引用・参考文献】

井西貴子　1992　「弥生時代の絵画紋と記号紋」『萱振遺跡』　大阪府教育委員会

大久保徹也　1995　『上天神遺跡』　香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター

大嶋和則　1996　「大空遺跡出土弥生土器の概要」『高松市歴史資料館収蔵資料目録』　高松市歴史資料館

北山健一郎編　1995　『太田下・須川遺跡』　香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター

蔵本晋司　1997　『空港跡地遺跡』　香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター

笹川龍一　1988　『九頭神遺跡発掘調査報告書』　九頭神遺跡発掘調査団・善通寺市教育委員会

佐原　眞　1980　「弥生時代の絵画」『考古学雑誌』66-1　高松市歴史民俗協会

西岡達哉ほか　1989　『稲木遺跡』　香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター

西村尋文ほか　1995　『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』　香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター

春成秀爾　1991　「絵画から記号へ」『国立歴史民俗博物館研究報告』35　国立歴史民俗博物館

橋本裕行　1996　「弥生時代の絵画」『弥生人の鳥獣戯画』　雄山閣

藤井雄三　1989　『久米池南発掘調査報告書』　高松市歴史民俗協会

藤田三郎　1982　「弥生時代の記号文」『考古学と古代史』　同志社大学考古学シリーズ刊行会

真鍋昌宏ほか　1993　『郡家原遺跡』　香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター

六車恵一　1959　「考古学ノートから」『文化財協会報』特別号4　香川県文化財保護協会

森　格也ほか　1995　『前田東・中村遺跡』　香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター

森下英治　1994　『旧練兵場遺跡』　香川県教育委員会

山下平重　1997　『川津一ノ又遺跡』Ⅰ　香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター

山本一伸　1997　『石田高校校庭内遺跡』　寒川町教育委員会

山本一伸ほか　1997　『森広遺跡』　寒川町教育委員会